

今年の粗飼料の使い方 (その一牧草編)

今年 は長雨や台風の相次ぐ上陸により、粗飼料の確保量不足や品質低下が心配されます。

そこで今年の粗飼料の使い方について、二回に分けて考えて見たいと思います。一回目は牧草についてです。

一 生育及び収穫作業の経過

○一番草

・萌芽期から六月上旬までは順調に生育していたが、六月中旬以降天候不順が続き、収穫が一週間程遅れ、七月にずれ込んだ。

○二番草

・刈り取り時期が八月の長雨で平年より二週間以上遅れた。
これらの経過より、刈り遅れや枯れ草の混入、下草のむれなどによるサイレージ品質の低下が懸念されます。

二 収量(表一)

・一番草の収量は、二〇二六kgと平年の九一%となった。
・二番草の収量は、九四二kgと平年の七五%となった。

・一番草と二番草の合計収量は八五%となり、サイレージ確保量の不足が心配される。

表一 H28年中西部支所管内の収量調査結果
(市町村、JA、普及センター調査による)

	H28	平年	平年比
1番草	2,026kg	2,229kg	91%
2番草	942kg	1,260kg	75%
合計	2,968kg	3,489kg	85%

三 栄養価

十月末時点までに揃った中西部支所管内のデータから、今年の傾向を見てみましょう(表二)。

○一番草

収穫時期までに低温、多湿で経過したため、牧草の生育ステージは進んでおらず、全道の平均と比較して、TDNは高く、繊維含量(NDF)は低い傾向です。一方、粗タンパクは低い傾向にあります。

既に給与している農場からは、食い込みが良いが、その割に乳量が出ないとの声も聞かれます。

○二番草

一番草同様、栄養価の低下は見られない傾向ではありましたが、嗜好性の確認など引き続き品質を確認する必要があります。

また、あくまで現時点での傾向ですので、粗飼料分析を行い栄養価の把握に努めましょう。

表二 平成28年度粗飼料の分析値
(ホクレン受付分 1番草22点、2番草8点)

		中西部	全道平均	全道対比
1番草	TDN	61.0	58.2	105%
	CP	9.4	10.4	90%
	NDF	64.9	68.8	94%
2番草	TDN	61.7	59.9	103%
	CP	14.8	13.0	114%
	NDF	60.5	61.3	99%

四 粗飼料利用計画を立てる

・今年の在庫量を確認し、不足が見込まれる場合は代替飼料の確保を検討する。

・地域内に粗飼料の余剰が無い情報を収集する。

・飼料供給元に購入粗飼料(例…ルーサンヘイ、クレイニングラスなど)や中間飼料(例…ビートパルプ、大豆皮、リント付き綿実など)が供給可能か確認し、飼料設計担当者と利用方法を検討する。

・育成牛の預託や低能力牛の早めの淘汰を検討する。
粗飼料不足への対応が後手に回らないように早めに手を打つことが重要です。

五 給与方法

○食い込み量の確認

開封時にサイレージ品質を見ながら、牛が十分に食べているかを確認しましょう。

○食い込みが悪い場合

・糖蜜飼料など嗜好性の良い飼料を併給する。
・不良発酵によりアンモニア体窒素が高い場合は、吸着効果が期待できるゼオライトを添加する。

・二次発酵している場合は、部分的な廃棄、一日分を無駄なく使い切る、プロピオン酸の噴霧、カビ毒吸着剤を検討する。

○粗飼料の組み合わせ

二番草単体での使用にならないよう、一番草やコーンと組み合わせるようにしましょう。

※次回はコーンサイレージの使い方についてです。
(平成二八年一〇月作成)